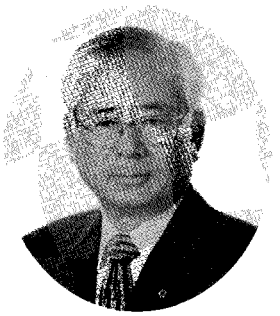
校友会結成30周年記念誌

かしわ

第2号

日立市立多賀中学校
日立市立多賀中学校校友会
記念事業実行委員会

序にかえて



多賀中学校校友会会長　小野　勝久

このたび、多賀中学校の卒業生などで構成されている「校友会」の機関紙「かしわ」第2号が、多くの方々のご尽力により発行される運びになりました。本号は記念誌とし校友会結成30周年記念式典などを中心に編集されています。ご多忙のなか玉稿をお寄せいただいた方々には心から感謝申しあげます。

ご承知の通り、校友会は在校生の健全育成のためいろいろな支援を行うことを目的に、昭和55年3月に結成され、このたび目出度く30年を迎えました。爾来、初代森秀男会長、二代山本忠安会長を中心に、多くの関係者のご努力により幾多の困難を見事乗り越え今日を迎えました。ここにそのご努力に対し、改めて深く敬意と感謝の意を表する次第です。

昭和22年に創立された多賀中学校は64年の星霜を経て、今や23,764名が社会に巣立ち、各方面で大いに活躍されています。喜びに堪えない次第です。

式典当日、私は在校生の皆さんに、「絆」の大切さを中心に、次のようなことをお話いたしました。それは、昨今の世情をみるにつけ、親子、兄弟の「絆」が一部の人々とは言え誠に希薄になっているからです。さらには自分を愛情深く育んでくれた、同じ学び舎で多くの思い出を作った友人や地域への人々への「絆」も希薄になりつつあるからです。自分はひとりで成長したわけではありません。多くの人々のお陰で成長したことを忘れてはいけないと思います。

在校生の皆さんにとって、多賀中は終生母校となるのです。そして来年になるとまた後輩が入学してまいります。毎年この繰り返しによりこの縦の絆がしっかり繋がっていくのです。今、在校生の皆さんには3学年で483人の仲間がいます。これを横の絆としましょう。特に同学年の仲間には同じ学年だけが体験した共通の思い出があります。私が絆を大切にと申し上げるのは、「良き友は苦しみを半ばとし、楽しみを倍にする」という言葉にあるように縦、横の絆で結ばれた仲間は、いつまでも貴重なあなたの財産だからなのです。これを大切にし、伝統ある多賀中で学んだ一人として誇りと自覚をもって頂きたいと思います。将来、皆さんを慈しみ育んでくれた郷土を思う時、中学時代に学んだ母校、多賀中が懐かしく思い出されると思います。どうか、郷土愛そして母校愛を忘れず社会の発展のため、大いに活躍して頂きたいと念願しております、とお話しました。

この機関紙「かしわ」は卒業生全員のための機関紙です。今後も絶えることなく継続して発行できることを願ってやみません。各学年の同期会、または同級会などの開催やイベント、恩師の動静など、どしどしご寄稿賜りたく存じます。

そして「縦」「横」の「絆」をより一層太く、しっかりしたものに育てて頂きたく心からお願い申し上げます。

校友会結成 30 周年記念

贈　呈
防雨型屋外電波時計

時間は誰にも平等です

― 目　次 ―

序にかえて …… 校友会会長　小野勝久
校友会結成 30 周年記念品　「防雨型屋外電波時計」

第Ⅰ部　校友会結成 30 周年
プログラム …… P１
校友会設立 30 周年祝辞 …… 日立市長　樫村　千秋　P２
校友会結成 30 周年を迎えて …… 多賀中学校校長　外岡　利治　P３
校友会 30 周年記念式典に参加して …… 多賀中学校生徒会長　岡田　彩花　P４

記念講演「好きこそものの上手なれ」 …… P５
記念事業・祝賀会写真 …… P９

第Ⅱ部　校友会設立から未来へ
歴代会長・初代事務局長座談会 …… P１１
校友会活動年表 …… P１４
思い出の写真 …… P１８

第Ⅲ部　多賀中学校　思い出と今と
思い出 …… P２１
直井　潔／小野　節子／吉成　明／宮田　朝男／辰巳　勝子
高村　純平／愛川　欣也／小高　五十二／坂本　和昭
佐藤　慎一／青羽　誠／大森　崇彦／豊田　伴行
輝け！！多賀中生【翻る学級旗】 …… P３４

第Ⅳ部　校友会について
クラス会開催記 …… P３６
校歌・応援歌 …… P３７
校友会会則 …… P３８
記念事業実行委員会組織図 …… P４０
記念事業実行委員の思い出／編集後記 …… P４１

第Ⅰ部　校友会結成30周年

記念式典プログラム

《式典の部》　１５:００～１５:３０

開式のことば

主催者あいさつ　　小野勝久校友会会長

学校長あいさつ　　外岡利治先生

来賓祝辞　　樫村千秋日立市長

来賓紹介

感謝状贈呈

受賞者　　森秀男様・山本忠安様・田所務様

受賞者あいさつ　　森秀男様

記念品贈呈

防雨型屋外電波時計一式

生徒代表お礼のことば　　岡田彩花生徒会長

校歌斉唱

閉式のことば

《記念講演の部》　１５:４０～１７:００開会

開会のことば

講師紹介

講演　　大至伸行氏

『好きこそものの上手なれ』

花束贈呈

閉会のことば

祝賀会の部　１８:３０～２０:００

シビックセンター多目的ホールにて

開会のことば

主催者あいさつ

乾　杯　　山本忠安顧問

祝　宴　ハーモニカサークル『チェリーズ』演奏

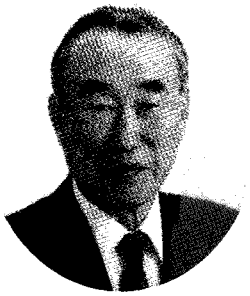
閉会のことば

ご案内

日立電鉄バス日立駅行き　多賀中学校前　　17：29

17：54

多賀中学校校友会設立30周年記念式典祝辞



日立市長　**樫村　千秋**

この度、多賀中学校校友会が結成30周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

小野会長をはじめ会員の皆様方には、日ごろから市政の各般にわたり力強いご支援、ご協力賜り、厚くお礼を申し上げます。

校友会は母校である多賀中学校の未来永劫の発展を願い、昭和55年に結成され、子どもたちをしっかりと支えてこられました。多賀中学校は文武両道に優れた学校としてその歴史を重ね、卒業された2万3千人余の会員の皆様は、歴代会長をはじめとして、社会の様々な場で活躍されております。これもひとえに、校友会の皆様の母校に対する熱い思いの賜物であり、心から敬意を表する次第であります。

さて、本格的な少子高齢社会を迎え、人口が減少していく中、本市を含め、わが国を取り巻く環境は大きく変化してきておりますが、日立市がこのような社会情勢の変化に柔軟に対応し、明るく活力あるまちとして発展し続けていくためには、自ら考え、実践することができる人材の育成が必要不可欠であります。そして、その根幹となるのは「教育」であります。とりわけ学校教育は、社会性を身につけるうえで極めて重要なステージであります。その学校教育の場において、経験豊富な皆様に、温かいお力添えをいただけることは、教育行政を推し進めるうえで非常に心強いものであります。

そして何よりも、各方面において活躍される皆様は、子どもたちの人生における頼もしい指針となり、子どもたちが生きていくうえで大きな支えになるものと確信しております。

本市におきましても、子どもたちが「知・徳・体」を兼ね備え、自らの力で自らの人生を切り開いていくことができる力を身につけられるよう各種施策を進めてまいりますので、引き続き温かい御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、この度の結成30周年を契機といたしまして、多賀中学校校友会の今後ますますの御発展と、会員の皆様の御健勝とご活躍を心からお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。

平成22年5月14日

多賀中学校校友会結成30周年を迎えて

日立市立多賀中学校長　**外岡　利治**

多数のご来賓の皆様にご出席いただき、多賀中学校校友会結成30周年記念式典が執り行えましたこと、誠におめでとうございます。また、校友会の役員の皆様、準備・進行等お疲れ様でした。

簡単に30周年が過ぎたのでなく、初代「森会長」、第二代「山本会長」、そして第三代「小野会長」と受け継がれたタスキが困難・試練を乗り越え、今日に至ったと思われます。「生涯教育」「週休二日制」「非行・校内暴力」に始まり、「いじめ」「学力低下」等が教育界をにぎわせてきました。しかし、この間、私達を喜ばせてくれた明るいニュースもありました。「つくば万博開催」「青函トンネル開通」「Ｊリーグ開幕」。校内では、「多賀中・体育館完成」「創立50周年行事開催」「野外ステージや資料館」が作られました。部活動でも県大会を突破し、関東大会でサッカーが二年連続優勝、相撲準優勝、アンサンブルコンテスト銀賞、ＴＢＳ合唱コンクール最優秀賞などがありました。産業界のトップに立った方、プロの選手や芸能人も出ております。

先輩方がこれらの活躍ができたのも、会員や母校の健全な発展に寄与することを目的に設立された校友会が活動へ援助をしてくれたり、声援を送ってくれるおかげです。多くの生徒が真面目に学習や部活動に取り組んでいる在校生の皆さんも日立市を越え、県・関東・全国に「多賀中ここにあり」「はい、多賀中の卒業生です」と胸を張っていえる人になってほしいと思っています。そのためには、家族や先生から言われてやるのでなく、自ら考えて行動に移せる生徒となってください。

私たち教職員も、これまでの活動を振り返ると共に今後の学校教育の在り方をしっかり考え、483名の生徒と共に、さらに輝く多賀中学校を築いて参りたいと思っていますので、今後とも会員の皆様のご支援・ご協力よろしくお願いいたします。

校友会30周年記念式典に参加して

多賀中学校生徒会長　岡田　彩花

私たちが生まれる前から、この多賀中学校を見守り、そして支えてくださった校友会も今年で30周年を迎えました。私はこの記念式典に参加して、初めて校友会の皆様のすばらしい活動内容を知ることが出来ました。30年の長きにわたり、生徒会活動後援会への補助、卒業生への校友会入会式での講話、卒業生への記念品贈呈、手をつなぐ親の会広報紙への補助など、多賀中生へ数々のご支援をしていただいていることです。これまでの先輩方の惜しみないご支援に対し、お礼と感謝の気持ちでいっぱいになりました。

現在、多賀中学校の卒業生は約2万3000人を超え、多くの先輩方が校友会に所属しております。先輩方が築きあげた、このすばらしい校友会の伝統を受け継ぎ、発展させていくことが、私たち在校生をはじめとして、これからの多賀中生の使命だと思っています。私たちも、卒業後は多賀中学校校友会の一員としての誇りをもち、先輩方と力を合わせて多賀中学校を支援していきたいと思います。

また、今回の記念式典の後の、卒業生の大至伸行さんの講演会も、心に残るものでした。「好きこそものの上手なれ」という演題で、相撲甚句や歌を交えての講演で、大至さんの歌声には、思わずうっとりし、歌声で人をこんなにもひきつけることが出来るなんてすばらしいと思いました。この講演で私は、努力することの大切さや、一生懸命に活動することのすばらしさを、改めて実感することが出来ました。

平成22年5月14日は私にとって、貴重で、これから生きていくうえで大切な1日となりました。

校友会結成30周年記念講演

好きこそものの上手なれ
相撲から歌の世界へ

講師　大至　伸行 氏

―　オープニング　登壇とともに相撲甚句前歌「土俵の砂付け」　―

私は、前歌「土俵の砂付け男を磨き、錦を飾りて母待つ故郷へ」を歌う度、たった2行しかないこの歌詞が力士の全てを物語っている、と思います。中学校卒業後、15歳で角界へ入門。右も左も何もわからないまま、早朝からの稽古や兄弟子たちの雑用に明け暮れた新弟子時代。凍えそうな寒い冬も激しい稽古で体中汗だくになり、投げられたり転ばされたりしてまさに土俵の砂をつけ、心・技・男を磨くわけです。角界の荒波にもまれながら、一場所毎にいろいろな経験を積み、番付を上げていく。くじけそうになる自分自身に発破をかけ、辛いときも常に自分が出世することだけを夢見、そしてそれが現実となってゆく。故郷に錦を飾る。出世した姿を待ちわびた郷土の応援してくださる方々、誰よりも息子の晴れ姿を待ちわびる両親の待つふるさとへ。この前歌の中には、力士のこういった思いが込められています。

私の学歴は、この多賀中学校で終わっています。高校は、相撲部屋といったところでしょうか。私の話は、どちらかというと在校生の皆さんのおじいさんやお父さんに受ける話でよくわからないかもしれませんが、これから高校や大学に行きそして社会に出る皆さんに、何かの役に立てればといった気持ちで話をします。子どもの頃からの夢は、学校の先生になることでした。私は、先生ではありませんが、今日は講演というより一つの授業、といった感じで聞いていただければと思います。

私が卒業したのは昭和59年3月、第37回の卒業生です。当時は、3年生が10クラス　2年生11クラス、1年生が12クラスで1500名在校生がいました。両親はもとより、理解ある先生方のおかげで、柔道部に所属しながら、相撲、水泳、合唱と、いろいろなところで活動させていただきました。

昭和43年8月23日に生まれ、私の上には兄が二人いましたが、父は今度生まれる子どもを相撲取りにしようと母と話していました。祖母が、孫に相撲取りがほしいとずっといっていたからでした。それは私の曽祖父が、新潟で若い衆を50～60人かかえて地方相撲をやっており、大きな人たちに育てられた祖母が、孫に相撲取りになって欲しいと願っていたからなのです。そして生まれたのは、4270グラムで男の子。絶対相撲取りにしようということで、生まれたときから持ち物には全部「横綱鮎川」と書かれ、小学校で本格的に相撲を習い、お前は相撲取りになるんだ、相撲取りになるんだ…と育てられました。自分は、学校の先生や歌手、あるいは花屋さんになりたいと色々な夢を持っていました。でも周りが、特に父親が言うから、県大会で優勝、全国大会に出場もしましたのでとりあえず頑張ってみよう、と中学生になりました。当時の田所務校長が、今度体の大きい子が入学してくるから校庭に土俵を作ろう、と言ったそうです。本当は相撲をやめたいと思っていた時だったのですが…。その内にどんどん体は大きくなり、周りの薦めや全国大会出場したこともあり、中学3年の秋には相撲取りになろうと決心しました。

昭和59年2月18日上京、卒業式を迎えることなく相撲界に入門しました。その日は前日からの大雪でした。多賀駅では、電車は予定を30分遅れて入ってきたのです。相撲にとって、雪は白星につながる、ということで縁起がいいといわれます。出発前、実家には学校の先生や親戚、友達、いろいろな方が、旅立ちの日のお祝いに来てくれました。旅立ちのときの父の言葉、「いよいよ息子の門出のとき。私は息子と同じ15歳7ヶ月のとき戦争の予科練に旅立ちました。私は命の保障がされていませんでした。でも息子は命の保障だけはされています。多くの方が応援をしてくれても、部屋の親方がどれだけ一生懸命指導をしてくれてもお前の努力なしに栄光はない。悔いのない人生を送ってほしい。相撲を通して立派な人間になってほしい。」この言葉を胸に私は、上京したのです。

部屋には40人ほどの兄弟子連中がいました。新弟子は何でも一生懸命します。掃除や洗濯などの下働き、もちろん自分の稽古。入門してから1週間は、お客さん扱いで楽な生活でした。相撲は個人競技ですが、相撲部屋では団体生活をしなければいけません。朝から夜寝るまで一日中、寝ている間も誰かが傍にいる。プライバシーは何もないのです。下は中学を卒業した15歳くらいの若い子たちから、上は33歳くらいまで一緒に生活をしていく。想像を絶する生活でした。相撲部屋は、汗臭くて土だらけ、汚い…というそんな世界ですが、横綱、大関という関取を目指し、一生懸命がんばっている人たちが多いのも事実です。

新弟子は朝4時半に起きて、寒いときでも裸足、裸で廻し一つで土俵におり稽古をする。稽古やちゃんこの支度で手や足はアカギレだらけ。毎日、食器を洗ったり米4升をといだりする手はバリバリに荒れ、いくらクリームを塗っても効かない。入門時125キロあった体重が、3ヶ月で30キロも痩せてしまいました。同期の新弟子は6人いたのですが、毎日の生活の苦しさに、親方に辞めさせてくれという者もでてきます。辞めさせてくれといっても辞めさせてくれないので、厳しさに耐えかねた新弟子たちは夜逃げをする。4ヵ月後には自分ひとりになってしまい、非常にさびしい思いをしました。一緒に逃げよう、と誘われたこともありますが、自分で決めた道であり、たとえ昔からの夢があっても途中で断念して周りに迷惑を掛けてはいけないと思い、逃げたいときもありましたが我慢をして歯を食いしばりやってきました。

― 歌 「相撲取りブルース」―

中学校を卒業して入門し引退するまでの18年の中で、一番勉強になったのは親方の教えです。この中学から4人の関取が出ています。一人は、小学生の頃から相撲を教えてもらった松光さん。幕内優勝の多賀竜、一年後輩の日立竜。日立竜は、一年後輩で十両に上がるのが、私より早かった。その状況を見かねた親方が、「後輩の日立竜が先に十両に上がって、お前は悔しくないのか」と、言いました。それは悔しかったです。親方は、「お前が力をつけるためにタイヤを引けと、毎日言ってるだろう。立会いの力がついてお前の相撲には、ぴったりだ。」 立会いの力をつけるために、10ｔトラックのタイヤを二つ重ねたものをアスファルト上で150ｍくらい引っ張るのです。親方は「お前は3日引いたら、腰が痛い膝が痛いといってやらない。だから強くなれないんだ。親方の言うことに間違いないから、毎日やってみろ。」さらに、「大至、努力とは、同じことを毎日続けることを努力と言うんだ。」と究極の言葉を言ってくれたのです。しかしこのタイヤ引きの稽古は、本当に腰や足が痛くなるのです。十番二十番相撲をとるより大変な稽古でした。筋肉がついてないのを見て、親方はそう言ってくれました。後輩に先を越されて悔しい。この状況の突破には、親方が言ってくれているこの稽古をやってみよう。そう思って、雨の日も風の日も雪の日も、やり続けました。体が悲鳴を上げましたが、1ヶ月続けると痛みが消え、2、3ヶ月すると、腰周りにふっくらと筋肉がついてきました。

今まで勝てなかった先輩たちに一番二番、やがて全部負けなくなりました。自分の体の変化がわかったときでした。半年、そして10ヶ月と毎日引っ張り、結果が出るようになり、ちょうど1年後に十両に上がりました。人から言われたことや親方の「努力は毎日続けること」を納得して実践し、「あっ！こういうことか」と実感した瞬間でした。壁にぶつかった時には、相撲取りやスポーツ選手は基本に戻ることが大事だ、と親方は言いました。相撲の基本は、四股を踏み、腕立て伏せやすり足をすることです。地味な稽古を振り出しに戻ってやる。そうすると自分の欠点が見えてくるものですね。勉強に例えれば、もう一度小学生に戻ればいいわけで、足し算引き算に戻ればいい。自分の悪いところを見つめてみるのは、大事だと思います。相撲取り時代に私が身につけた、努力、そして壁にぶつかったら基本に戻れ、というこの二つは相撲に限らずいろいろなことに役に立つのではないでしょうか。

現在の活動は、歌手を主体にして、健康のセミナー、相撲界での体験についての講演、芝居、ミュージカル、映画の仕事とかＣＭの仕事など色々やらせてもらっています。たとえばミュージカルで長いせりふを覚えようとする時、中々頭に入らず苦労します。一回頭に入れてやってみる。でも詰まってしまう。もう一回基本に戻り、声出しのところからやり直し、本を読み音程をチェックをし、歌のチェックをする。相撲のときと同じだな、と感じます。映画やテレビ、イギリスの映画にも出演させていただきましたが、日本でメジャーになるのは難しいです。でも、これからも何かあったら基本に戻ってやっていこう、と思っています。

タイヤ引きという一つの稽古の方法を覚えて、自分の体にも相撲にも変化をもたらし、入門してから怪我をしたり病気になったりしたけれど、10年目に十両にあがり、更に1年後には幕内で相撲を取れるようになりました。私が土俵で相撲をとっていた頃は、千人のお相撲さんがいて、その中でわずか40名の力士だけが、幕内と呼ばれる超一流の力士でした。その下に十両という地位が26名、全部で66名だけが高い給料をもらい、土俵の上で立派な締め込みと化粧回しをつけ、大銀杏を結いテレビが映るところで相撲を取らせてもらえたのです。私は、若・貴・武蔵丸・曙といった当時の超人気力士と一緒に土俵をやらせていただいたことは、今まで生きてきた中でも一番の誇りです。いまでこそ相撲人気が低迷してきており、これも社会的な不景気というものが一つの原因かと思います。ひとり一人の個性的な力士も減ってきました。朝青龍が引っ掻き回したり、弟子がいじめで亡くなったり、大麻事件があったりで世間を騒がせ、相撲ファンが離れていっているのも仕方がないことなのかもしれません。

私も相撲人気によって仕事が左右される状態に、出会ったことがあります。大麻事件で騒がれている頃、大阪での仕事が既に決まっていました。ところが、大麻で力士が逮捕された。主催者は、相撲というイメージが悪いという理由で、一週間か10日位前の土壇場でしたがキャンセルされてしまいました。そんなことを見聞きし、自分でもいろいろ感じたりしているときに、何か相撲界を盛り上げることはできないか、という思いに駆られました。相撲界を去るとき、私に部屋の跡継ぎになって師匠として部屋を守り立ててくれと弟弟子たちにいわれましたが、私は、昔からの夢である歌の道を忘れられなかったのです。相撲取りを辞めたら歌をやりたい。その気持ちが非常に強かったから、力士のうちは一生懸命がんばり、相撲取りはもうこれでいい、此処が自分の引退どころだというところを決めて、潔く土俵を去りました。だから、引退後は胸を張って芸能の世界に飛び込めました。相撲界を棄てたわけではありません。しかし、相撲を引きずるという意味で、あまり甚句を歌いたくない、相撲の話をしたくない時期がありました。ところが、世間から聞こえてくる話は、甚句を歌って欲し

い、相撲の話をしに来てください、講演に来てくださいというもので、そういう仕事が多くなってきました。やはり、昔相撲取りだった過去は消えない。だったら、それを売りにして、この体たらくの相撲界を、イメージダウンになってしまった相撲界を、自分が少しでも浄化できないか、盛り上げることはできないかと思って、『大至オフィシャルファンクラブ「まんぷく！会」』を立ち上げました。自分のライブコンサートのお知らせもしますが、今の相撲界を盛り上げていこうということで、現役の力士や親方を呼んだり、相撲部屋を紹介したりします。相撲の色々な隠れた魅力を一般の方々に知っていただきたい、そして全面的に相撲を応援していきましょう、というファンクラブです。

引退して気づいたのは、相撲は五感をフルに使う世界だということです。力士の立派な体格、取り組み、そういうものを目で楽しむ。取り組みの時の立会いのゴツンという音。立会いの瞬間には１ｔという力が加わります。音、甚句、呼び出しの木の音を耳で楽しむ。力士に触れる。力士が髷を結う時の鬢付け油の香り、を鼻で楽しむ。それから、ちゃんこ鍋の文化を、舌で楽しむ。ちゃんこ鍋の「ちゃん」は父であり、「こ」は子どもです。父と子が、一つの鍋のものを食べる、ということが語源になったそうです。相撲界に置き換えれば、個人競技でありながら師匠と弟子が一つの鍋のものを皆で食べることで、団体生活の絆が生まれる。人間関係が希薄な昨今、大切な食生活の一つではないでしょうか。素晴らしいところに身を置かせていただいたと思っています。立派な体を作ってくれた両親、地元の応援、部屋の師匠やおかみさん、兄弟子連中に感謝の毎日です。

現在は、甚句を主体に歌っております。相撲界で教わった相撲甚句という一つの文化を継承し、地元ばかりでなく全国各地で歌を歌えるというのは、この上ない感謝でしかありません。相撲界を出てみて、その有難さがわかります。親元を15歳ではなれた時こそ、父母のありがたみがわかる。何気ない日常で食べていた食事の有難さ、離れて初めて気がつきました。私は高校や大学を出て、学校の先生に本当になりたかった。でも、相撲部屋という高校に入学し、18年間勉強させていただいたということは、自分の人生の中での貴重な体験でした。1年中裸足、裸でいた新弟子時代。3年目位から相撲部屋の生活にも慣れ、痩せた体もどんどん太ってきました。10年経つ頃には一人前の関取になり、幕内で横綱と対戦させていただいたりしたが、父が入門のときに言った、“立派な人間”になれたかどうかは自分では判断しかねるところです。父の言葉は今でも骨身にしみています。相撲が自分を育ててくれた。親の一言があったので此処まで来ることができた、と思っています。

番付最高位は幕内三枚目までしかいけませんでしたが、自分では精一杯やらせていただきました。病気をして相撲がとれず十両に落ちたり、3年後に再入幕したりし、山あり谷ありの人生で今年42歳です。在校生の皆さんには今は理解できないかもしれませんが、大至がこんなことを言っていた、こんな先輩がいた、といつか思い出してくれればそれで結構です。在校生の皆さんのためにも恥ずかしい生き方をしないよう、自分に鞭を入れて頑張っていかなければならない、と思っています。自分は芸能の世界で生きていくと決めて相撲界を離れるときに、部屋の親方になって残ってほしいと引き止めてくれた弟弟子たちのためにも、恥かしいことはできないと思っています。

相撲甚句は、素晴らしい文化ですねといわれる時代が、もうすぐそこに来ています。実際に、「ナイス　ソング」と外国の方から言われました。自分が歌うことにより、相撲界の役に立てれば幸いです。相撲甚句は、言葉を七五調に並べ、喜びや悲しみを節回し一つで表現します。民謡が海外で言うところの日本のクラッシックやオペラだとすれば、甚句は土俵の上のシャンソンとでも申しましょうか、力士の哀歓のこもった情緒たっぷりな歌です。

―　相撲甚句「花尽くし」・大至オリジナル「アイシャ（希望）」　―　　ありがとうございました。

校友会結成 30 周年記念式典・講演

受付風景

校友会会長から生徒会会長へ

大至伸行氏講演　「好きこそものの上手なれ」

拍子木を打ちながら入場

講演に聞き入る在校生や一般参加の方々

祝賀会

小野会長挨拶

ハーモニカサークル
「チェリーズ」

共演
大至＆チェリーズ

相撲甚句を披露

校友会の明日は任せたよ！！

第Ⅱ部　校友会設立から未来へ

座談会

多賀中校友会の30年を振り返って　―未来に向かって応援団―

多賀中校友会は30周年を迎えました。結成当時奮闘された初代・二代会長と初代事務局長を迎え、現会長とともに30周年を振り返っていただきました。

平成22年7月2日（金）　商工会議所会頭室

《出席者》　森秀男（初代会長）・山本忠安（第二代会長）・白石陽一（初代事務局長）
司会：小野勝久（現会長）　　敬称略

小野　今日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。校友会は結成30周年を迎え過日記念式典を行いました。この30年を振り返って、ご苦労話や思い出などお聞かせいただきたいと思います。

では、初めに、校友会がどのようにして結成されたのか、そのあたりのお話をお聞かせください。

森　私と山本さんは昭和10年生まれ。多賀中での昭和25年度卒です。当時の同窓生は750人余でした。卒業と同時に初めての学年の同窓会『柏葉同窓会』を作っていました。私が会長でしたので、校友会の設立に関りました。

森　秀男
初代校友会会長

山本　昭和54年、卒業して29年。今度はわが子が多賀中でお世話になっていました。当時の校長田所先生から『多賀中は創立30年を越える伝統があるのに縦をつなぐ校友会がない。作ってはどうか。』とお話をいただきました。幸いなことに、学年の同窓会はしっかり出来上がっていたので、後は前後の繋がりをどうすればいいかということでした。ＰＴＡや生徒活動後援会で一緒に活動していた一学年下の白石さんなどに協力を求めました。

森　『全体の親睦を図りながら卒業生として母校を支援しよう』との目的で皆が動き出して、昭和55年3月に多賀中校友会が発足しました。

小野　発足に向けてご苦労されたことはどんなことでしょう。白石さんにお持ちいただいた昭和55年当時からの校友会関連書類は、手書きや青焼きといった30年の歴史を感じます。校友会にとってとても貴重な資料です。

白石　どの学年にどのような人がいるか、人を探すといっても卒業当時の名簿しか手がかりがありません。身近なところから口コミを頼りにコンタクトをとるわけですが、今のようにネットや携帯はなかった時代なので、たどり着くには大変な労力でした。また、その中から役員の人選をしなければなりませんでした。会長森さん・副会長山本さんは揺るぎませんでしたが。

そして一番大事だったのが規約作りです。各学年の同窓会規約や色々な組織の規約を参考に、皆で頭をつき合わせていたのだと思います。

森　10月に設立総会。翌55年3月8日、田

所校長先生のご協力の下、多賀中学校校友会が発足しました。私は会長としてその年の卒業式に参加しました。

白石　卒業式前日には入会式を行いました。その当時で１万５千人の卒業生がおり、卒業生を新たな会員に迎えました。入会式は初めてだったこともあり、副会長山本・事務局長白石・書記小野の3人が挨拶したのを覚えています。自分の中学生のころと卒業生を重ね合わせ、これからの未来頑張ってほしいという思いでいっぱいでした。

小野　発足から30年が経ちました。その間の校友会事業で思い出はありますか。

森　多賀竜が優勝した時、パレードを企画したりしてお手伝いしましたね。体育館にある大きな額を国技館から運んだりしました。多賀中は4人も力士を輩出しており、後援会として応援してきました。早く、第二・第三の日本一世界一の額を又飾りたいですね。

白石　陽一
初代事務局長

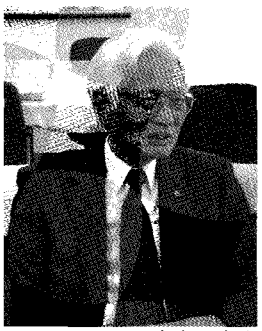
白石　新体育館の竣工時にもお手伝いしました。学校やＰＴＡをバックアップしてきました。

森　多賀中学校創立50周年記念式典は大きな素晴らしい行事でした。ＰＴＡの皆さん方が先生方と生徒たちと一緒になって活躍していたことが印象に残っています。これは多賀中の伝統ですね。

山本　30年続く入会式での講話はこれからも大事にしてもらいたいね。反抗期の生徒たちが『親や教師の言うことには耳を貸さなくても先輩の話はきちんと聴いていました。』と、先生から言われたことがありました。

小野　それらを経て、5月14日に結成30周年記念式典が行われたわけですが、出席されてのご感想をお聞かせください。

森　田所校長先生・二代会長山本さんとともに表彰して頂いたことに感謝しています。また、現小野会長はじめ実行委員たちが工夫を重ねて式典・講演会・祝賀会を進めており、その活躍は先輩としても大変力強く誇りに思います。現役の生徒にも大きなインパクトを与えたと思います。


山本　忠安
第二代校友会会長

山本　大至関の講演会は、生徒はもちろん大人の私たちも感動しました。大至関は講演後、小咲園を慰問しました。一社会人として社会奉仕をする姿は、これまた先輩として頼もしく大変嬉しいものでした。

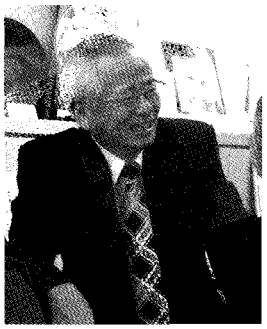
白石　校友会の存在を知らせるという目的は、多くのメディアを通してＰＲしたことが功を奏したようです。多くの一般客が来てくださり、地域における多賀中の役割の大きさを改めて感じました。また、市長・議長・教育長をはじめ来賓も多く、多方面で多賀中が評価されているのだと嬉しく思いました。在校生にも意識の広がり、啓発効果があったでしょう。

小野　多くの人に支えられ、多くの人を支えていかなければならない校友会ですが、今後はどのような活動が望まれるでしょうか。

現会長として考えていることがあります。学校において『校友会の出番を作りたい』ということです。今回の記念式典では半年以上前から学校側とカリキュラムの調整を行ってきました。今の学校は大変忙しく、新しい行事を組み込むことは大変なことです。校長先生はじめ諸先生方のご理解、生徒達の協力で実現できました。そんな学校事情を充分承知した上ですが、校友会には多くの人材がいます。例えば人生経験豊富な人の話を聴くことができれば、生徒にも保護者にも、有意義で自分を見つめ直す良いきっかけとなるのではないでしょうか。

森　賛成です。現代社会においては、利便性・効率化と引き換えに、昔のいい伝統が失われつつあります。世代の違う人と話をする機会はなかなかないことでしょう。

目上の人を大切にする、後輩たちを温かく見守る、というのは、やはり身近な先輩や地域の人が学校に顔を出すことで、生徒や保護者と関わりを持つことになり、幅広く社会との繋がりができることになっていきます。生徒に接して体験を伝えることが、生徒たちの学びや成長に活かしてもらえれば素晴らしいことだと思います。


小野　勝久
現（第三代）校友会会長

山本　職業人として話しをすれば、職業観に影響を与えますね。成功談はもちろんですが、苦労話や失敗談などは、家族の人のご苦労にも目を向けるチャンスとなるかもしれません。

白石　多方面で活躍している卒業生の話を聴くチャンスを作るのは、まさに校友会の役割だと思います。校友会員は高校生からいます。歳の近い先輩の話は、身近に感じて聴くことができるのではないでしょうか。

小野　皆さんに賛同していただき心強いです。ＮＨＫの番組のような『ようこそ先輩！多賀中バージョン』ができたらいいなと思います。在校生や保護者、先生方にとって何らかのお手伝いをしたいと思っています。そのためには、たくさんの情報を集め、人材名簿を整理しなければなりません。

また、若いスタッフからは『校友会を身近なものにできないか』という声も上がっています。子育て経験の中で自分が感じ、立ち向かっていったことは、今の子育て真最中世代にも参考になることがたくさんあるはずです。生徒だけではなく保護者に向けてもできることもありそうです。それによって校友会の活動が広く伝わることにもなるでしょう。

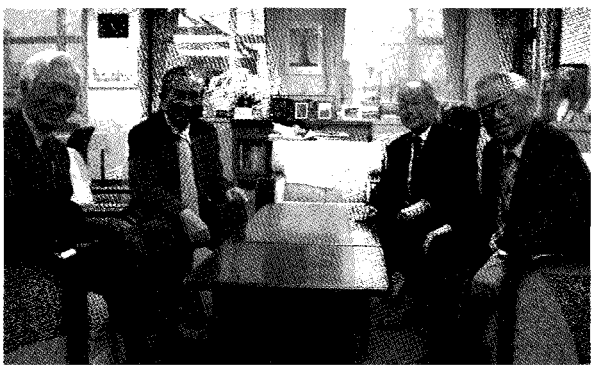
森　今は教育環境も家庭環境も決して穏やかではありません。大人や親に問題がある毎日ですから、素直な子どもたちもストレスを感じていることが多くあります。大人が先ず余裕を持つことは子どもたちにいい影響を与えることでしょう。

子供の教育は地域全体で考える時代に直面している今、社会が学校を応援するにはどのような形が望ましいのか、校友会は先頭となって考えていくことができます。先ず校友会が学校に携わり役割を果たす、それが今後の社会と学校の関わり方の一つのモデルになってほしいと思います。多賀中はなれると思います。

小野　校友会は在校生の応援団です。地域の方々とともに、生徒の生活を物心両面から支援したいと考えています。社会の一隅を照らす、身近で温かい講話で、生徒や保護者の不安やストレスを和らげ、未来への希望を持ってもらいたいと思います。

校友会は卒業生が組織していますが、賛助会員制度があり、多賀中を応援したいという方ならどなたでも一緒に活動していただけます。多くの方に関心を持っていただき、皆で一緒に多賀中を応援していきましょう。

今日はありがとうございました。まだまだ活動は続きます。今後とも力強いバックアップをお願いします。



多賀中学校沿革の大要及び校友会活動年表

昭22. 4　文部省令第11号により茨城県多賀郡多賀町立多賀中学校を設立
〃22. 5　開校式挙行、水木、大沼、河原子、大久保、成沢の各小学校の一部を分教場として発足、学級数25、生徒数1,311名となる。
〃22. 6　校章制定する。（「多賀」の文字を葉に図案化）
〃23.11　各分教場を廃し、多賀工場を改造,独立校舎となる。（のこぎり校舎）
　　11.23落成記念式
〃25. 3　開校式,学級数42、生徒数2.262名
〃26. 4　大沼中学校が分離（2,262名）が（1,691名）となる
〃29.12　木造新校舎32教室及び本館竣工なる
〃30. 1　校歌制定、発表会を行う
〃30. 2　日立市制施行により日立市立多賀中学校と名称を変更する
〃33.10　特殊学級１学級設置する（市内で最初）５月 体育器具置き場　７月 調理室完成
〃34. 4　体育館完成する（792㎡）
〃35. 4　特殊学級１学級増設（２年）、５月　大久保分校設置する
〃36. 3　校旗樹立式を行う
〃36. 4　大久保中学校が分離（2,246名）が（1,729名）となる
〃37. 1　技術室完成、４月　野球場バックネット完成する
〃38. 3　創立15周年記念事業として「心字の池」・温室完成する
〃40. 7　ＪＲＣ加盟・結団式を行う。
〃42. 3　放火により南第一校舎８教室焼失
〃43. 4　河原子中学校分離（1,351名）が（949名）となる
〃43. 4　日立市立養護学校(高等部)本校敷地内に完成、開校
〃45. 1　手をつなぐ親の会設立
〃47. 6　プール完成
〃48. 2　永久校舎（現校舎Ｂ棟）建築第一期工事開始
〃49. 4　　同上　　完成（24教室）
〃51.11　昭和50・51年度日立市教委研究指定校
　　「豊かな人間形成を求める教育課程の研究」完結発表
〃53. 3　永久校舎（現校舎Ａ棟）建築第二期工事開始
〃54. 4　　同上　　完成(管理棟及び21教室)
〃55. 2　新校舎落成記念事業協賛会発足、事業として部旗、ピアノ、吹奏楽器等購入、
　　庭園緑化整備完了
〃55. 3　校友会設立総会　卒業生への講話　多賀竜祝賀会
〃55.11　県指定学習指導研究完結
〃56. 3　卒業生への講話　中学生各種大会新聞広告費援助　多賀竜化粧回し　体育祭カップ
〃57. 3　学・視・連全国視聴覚教育研究発表会々場となる
〃57. 3　卒業生への講話　多賀竜祝賀会
〃57. 7　土俵完成、８月体育館放送室完成、放送施設(ＡＶ卓)設置
〃58. 3　卒業生への講話　サッカー新聞広告費援助
〃58. 3　野外ステージ完成、６月プール機械更新、８月焼却炉新設
　　11月焼窯室新設
〃59. 3　卒業生への講話　多賀竜優勝祝賀会　サッカー全国大会各種援助
〃60. 2　校舎(Ａ棟東側特別教室)増築，野球場整地，３月サッカー場整地

昭60. 3　卒業生への講話　サッカー新聞広告費援助
〃61. 3　卒業生への講話　サッカー新聞広告費援助
〃61. 6　市内総体10連覇達成
〃61.12　県ＰＴＡ連絡協議会より優良ＰＴＡとして表彰される
〃62. 3　卒業生への講話　無欠席者表彰
〃62. 5　第1回校友会総会　吹奏楽部楽器修理補助　県選抜サッカー、野球大会広告代補助
〃62. 8　役員会（終身会費について）
〃63. 3　卒業生への講話　無欠席者表彰　県選抜サッカー大会広告代補助
〃63. 4　「創意ある学級づくり」研究推進校（２年間）として県の指定を受ける
〃63.11　理事会　新体育館落成準備委員会
〃63.12　役員会　新体育館落成記念事業実行委員会（ＰＴＡ・校友会）
平元. 3　新体育館完成（1,350㎡）、４月落成記念式典実施、６月創立時の校門移設
〃元. 3　卒業生への講話　無欠席者表彰
〃元. 4　新体育館記念式典
〃 2. 3　県指定「創意ある学級づくり」研究推進校研究完結
〃 2. 3　卒業生への講話　無欠席者表彰　県選抜野球大会広告代補助
〃 2. 4　役員会（多賀竜関優勝額設置協力）
〃 2. 4　校歌額体育館に設置、６月多賀竜優勝額体育館に設置
〃 2.11　ＮＨＫ合唱コンクール全国コンクール銀賞受賞
〃 3. 3　卒業生への講話　無欠席者表彰　生徒活動後援会補助
〃 3. 5　役員会
〃 3. 6　理事会（62.63.元.2）
〃 3.10　ＮＨＫ全国学校音楽コンクール（合唱）関東甲信越大会で銅賞受賞
〃 4. 1　役員会
〃 4. 2　多賀竜引退式典（国技館）
〃 4. 3　卒業生への講話
〃 4. 9　ＮＨＫ全国学校音楽コンクール（合唱）関東甲信越大会で銅賞受賞
〃 5. 3　卒業生への講話　県選抜サッカー大会広告代補助　卒業記念品購入代補助
〃 5. 9　ＮＨＫ全国学校音楽コンクール（合唱）関東甲信越大会で銅賞受賞
〃 5.11　茨城県ばら賞ほう賞受賞
〃 5.11　日本赤十字色有功賞を受賞
〃 6. 3　卒業生への講話
〃 6. 8　ＴＢＳこども音楽コンクール茨城県大会（合唱）優秀賞を受賞
〃 7. 3　卒業生への講話　多賀中50周年記念メダル補助
〃 7.10　第５回日立ヤングボランティア賞受賞
〃 8. 1　第34回かんぽ作文コンクールで郵政大臣賞受賞
〃 8. 3　卒業生への講話　多賀中創立50周年事業への協力（憩いの庭出入り口設計変更）
　　入会金改正
〃 8. 6　創立50周年記念行事「大至関を囲んで」を体育館で実施
〃 8. 8　女子バレーボール部関東大会出場
〃 8.11　創立50周年記念式典を盛大に挙行
　　・創立50周年事業「憩いの森」完成
　　・多賀中学校資料館完成
〃 9. 3　卒業生への講話
〃 9. 5　９年度役員会　第２回総会（Ｓ62～Ｈ8）会則の一部改正
〃 9.11　第36回かんぽ作文コンクールで郵政大臣賞（学校賞）受賞

平 9.11　全日本ＰＴＡ連絡協議会より会長賞受賞
〃10. 3　卒業生への講話
〃10. 7　10年度役員会
〃10. 9　第１学年宿泊学習「心ゆたかな体験学習」開始
〃10.10　「心の教室相談員」２名配置
〃10.12　コンピュータ室パソコン40台新機種に交換
〃11. 3　卒業生への講話　会員名簿の整理
〃11. 9　ゆうあいピック島根大会（バスケットボール)に１名出場
〃11.10　ジュニアオリンピック(女子200M)に１名出場
〃11.11　第38回かんぽ作文コンクールで簡易保険加入者協会会長賞（学校昭）受賞
〃12. 3　卒業生への講話　会員名簿の整理
〃12. 9　日立市統計図表展　　学校賞を受賞
　　日立市中学校新人大会陸上競技　総合優勝
〃12.10　ゆうあいピック岐阜大会(バスケットボール)に１名出場
　　ジュニアオリンピック(陸上リレー)に１名出場
〃12.11　郵政省簡保作文コンクール　関東郵政局長賞　２名受賞
　　県統計図表展１名　議長賞を受賞
〃12.12　第3回総会（Ｈ９～11）　生徒活動後援会補助
〃13. 3　卒業生への講話　会員名簿の整理
〃13. 7　第4回総会（H12）　生徒活動後援会補助
〃14. 3　卒業生への講話
〃14. 4　臨時役員会　新役員選考.新会長選出　生徒活動後援会補助
〃14. 8　平成15年度全国高等学校総合体育大会（バスケットボール）会場
　　放送設備改修工事
〃14.11　ピッピコンサート実施
〃15. 3　14年度役員会（新役員選出）卒業生への講話
〃15. 7　15年度役員会　第５回総会（13.14）生徒活動後援会補助　会員名簿の整理
〃16. 3　卒業生への講話
〃16.11　学校給食の取り組みで，茨城県給食振興期成会長賞受賞
〃16.12　16年度役員会　生徒活動後援会補助　会員名簿の整理
〃17. 1　う歯減少の取り組みで，茨城県歯科医師会長賞受賞
〃17. 3　卒業生への講話
〃17. 7　17年度役員会、第６回総会（15.16）生徒活動後援会補助　卒業記念品贈呈　会員名簿の整理
〃17.12　ジュニアオリンピック（男子バレーボールに１名出場）
〃18. 3　ＰＴＡ作成広報誌「たが」が茨城県教育広報・ＮＩＥコンクール「教育広報紙の部」で県知事賞受賞（18年11月に全国小中学校ＰＴＡ広報誌コンクール「日本教育新聞社社長賞」受賞）
〃18. 3　卒業生への講話
〃18. 6　18年度役員会　生徒活動後援会補助　卒業記念品贈呈　会員名簿の整理
　　ＰＴＡ広報紙県知事賞受賞祝賀会（展示用パネル贈呈）
〃18.12　中学校ロボットコンテスト関東大会出場（生徒４名）
〃18.12　ジュニアオリンピック（男子バレーボールに１名出場）
〃19. 3　茨城県教育広報・ＮＩＥコンクール「教育広報の部」優秀賞
〃19. 3　卒業生への講話
〃19. 6　野球場バックネット追加工事
〃19. 7　19年度役員会、第７回総会（17.18）生徒活動後援会補助　卒業記念品贈呈（筒）会員名簿の整理
〃19. 8　全国小中学校ＰＴＡ広報誌コンクール「日本教育新聞社社長賞」受賞

平19. 8　第13回関東中学校水泳大会（男子200mバタフライに１名出場）
〃19. 8　第34回全国中学校陸上競技大会（女子100m，200mに１名出場）
〃19. 12　ジュニアオリンピック（男子バレーボールに１名出場）
〃19. 12　第16回関東中学校駅伝　男子チーム出場
〃20. 2　全国小中学校ＰＴＡ広報誌コンクール　全国新聞教育研究協議会賞（全国２位）
〃20. 2　茨城県教育広報・ＮＩＥコンクール「教育広報の部」 県知事賞
〃20. 3　卒業生への講話
〃20. 8　20年度役員会　生徒活動後援会補助　卒業記念品贈呈（筒）会員名簿の整理
手をつなぐ親の会広報紙補助　校友会広報紙編集委員会、ホームページ立ち上げ
〃20. 8　第38回関東中学校ソフトテニス大会（男子団体）に出場
〃20. 8　四者（ＰＴＡ・手をつなぐ親の会・生徒活動後援会・校友会）懇親会及び
山本忠安校友会顧問叙勲（旭日小綬章）お祝いの会参加
〃20. 12　第９回関東甲信越地区中学校ロボットコンテスト大会に４名出場
〃20. 12　第17回関東中学校駅伝　女子チーム出場
〃21. 1　第27回全国都道府県対抗女子駅伝に１名出場
〃21. 3　第20回全国都道府県対抗全日本中学生ソフトテニス大会に１名出場
〃21. 3　卒業生への講話　校友会広報紙「かしわ」創刊
〃21. 6　21年度役員会
〃21. 7　第８回総会（19. 20）役員改選　会則の１部改正、細則
生徒活動後援会補助　卒業記念品贈呈（筒）会員名簿の整理
手をつなぐ親の会広報紙補助　校友会結成30周年記念事業及び実行委員会発足承認
〃21. 8　第40回全国中学校ソフトテニス大会１ペア出場
〃21. 8　第37回関東中学校陸上競技大会共通男子200M．共通女子1,500M出場．１年女子走幅跳出場
〃21. 8　全日本中学校陸上選手権大会共通男子200M出場
〃21. 12　第18回関東中学校駅伝　女子チーム出場
〃21. 12　ＪＯＣジュニアオリンピックカップ第23回全国都道府県対抗中学バレーボール大会男子２名出場
〃21. 12　役員会（30周年記念事業について）30周年準備委員会　30周年記念事業実行委員会発足
〃22. 1　平成21年度「茨城県よい歯の学校」表彰校　県歯科医師会長賞
〃22. 1　第28回全国都道府県対抗女子駅伝に１名出場
〃22. 2　茨城県教育広報・ＮＩＥコンクール「教育広報の部」 優秀賞
〃22. 3　卒業生への講話 第1回30周年記念事業実行委員会全体会
〃22. 4　第２回30周年記念事業実行委員会全体会
〃22. 5　第３回30周年記念事業実行委員会全体会　校友会結成30周年記念式典
記念品贈呈（防雨型屋外電波時計一式）　講演会　祝賀会
反省会
〃22. 7　22年度役員会
〃22. 11　記念誌「かしわ」発行

続きを読む

戻る